

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会  
発行人 前田 寛  
編集者 田代 隆  
印刷所 東京 千代田区西神田 2-24-6  
電話 (03) 2426-6337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育上極めて重要な行事である。  
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、その改善努力しつつ教育効果の充実に努める事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。  
(財団法人 全国修学旅行研究協会 趣意書から)

本年度の役員は次のとおり  
(各中学校長、敬称略)  
会長 阿部豊 (栃木・一条)  
副会長 浜名憲昭 (茨城・水戸)  
八木原勝司 (群馬・前橋)  
坂田安雄 (埼玉・大谷)  
八木忠雄 (千葉・旭)  
運営委員長 布目雅之 (埼玉・千間台)  
運営副委員長 佐藤昭昭 (千葉・栗ヶ沢)  
事務局 青柳 研一 (国本)  
会計委員長 田中健一 (群馬・赤松)  
監事 八木原茂雄 (茨城・赤松)  
田村幸二 (栃木・横川)  
顧問 山本種一 (全修協)  
参与 前田 寛 (同)

第5回修学旅行セミナー  
9月7日 京都で開催  
財団法人全国修学旅行研究協会主催の「第五回修学旅行セミナー」は、九月七日京都市のアバンティホールで開催する。  
浦二 高橋英夫 (下館西 梅原 台原)  
▲栃木県 菅沼基訓 (岡田 大塚宏 (真岡西) 宮本明尚 (光東) 新井嘉矩 (足利二) ▲群馬県 竹内進月 (夜野) 武藤栄 (沼和) 中島靖浩 (沼田) 高橋篤 (入山) ▲埼玉県 佐伯明志 (花栗) ▲埼玉県 行田西 野口弘夫 (桜山) 染谷耕三 (光陽) 栗原利夫 (武蔵台) 高澤一男 (雄 澤田克郎)

風紋  
六月は異常気象だった。季節感もなく、暑く、東京都心では酷暑の日々にアキアキが群舞、自主見学の修学旅行生がトンボ取りをしたり、外人女性が毒虫と勘違いして悲鳴をあげ逃げまどう姿も見られた。七月七日は七夕、本来は陰暦で行う五節句の一つだが、月遅れで行う地方が多いようである。日本一の仙台七夕まつりも八月であるが、平塚では毎年七月に実施している。七月はまだ梅雨が明けず、星の見られないことが多いが、新暦にせよ、月遅れにせよ、竹の豪華な装飾ばかりで、夜空を無視して見ているのではないだろうか。天の川を挟んで、東岸の牽牛星(鵝座のアルファ)アルタイルと西岸の織女星(座のアルファ)ベガが会ったのは、夜遅く旧暦七月の半月が西に沈んでお膳立てができるのであるが、今年のように満月が中天高く輝いているのは異変が悪い。現代では明るい月夜でも密会は差し支えないのかも知れないが、もう少し星のロマンを感じさせるものであってほしい。今年の旧暦七夕は八月二十六日。この日は都会を離れ、大自然の中で素晴らしい星空をじっくり眺めたいものである。さすがに十五夜は旧暦にならぬ。お盆も本来は七夕の翌週、満月の下で盆踊りを明け方まで楽しんでのんびり過ごすのが月遅れ、猛暑のこの骨休みの季節、新暦では休んでもいいが、やがて夏休み、校外活動、研修旅行、帰省、ファミリーツアーと多忙な季節を迎えるが、今年の夏も平穩無事であることを願う。(中)

## 関東地区・東海三県中学校 修学旅行委員会総会開く



退会者に感謝状を贈呈 (関修委)

関東地区公立中学校修学旅行委員会及び東海三県中学校修学旅行委員会は、それぞれ平成二年度総会を開催し、役員を選出、事業計画・予算の決定等を行って、本格的な活動のスタートを切った。

### 会長に阿部 豊氏

#### 関東地区公立中修旅委

関東地区公立中学校修学旅行委員会(木村一 会長・前代原市立茂原中学校長)は、本年度総会並びに第二回研究協議会を六月十五日、東京文化会館で開催した。  
木村会長、参与の全修協前田事務局長のあいさつの後、JR東日本の塚田係長及びJR東海の都筑課長代理から、東京駅八時台発ひかり号の一般客混雑緩和のため、関修委専用列車をこれまで以上に増便を願いたいとの申し入れがあった。

### 委員長に大島直樹氏

#### 東海三県中学校修旅委

東海三県中学校修学旅行委員会(佐藤敏文委員長・前愛知県岩倉市立岩倉中学校長)は、平成二年度総会を、六月十二日名古屋市教育館で開催された。

### 時言

## 夢とロマンのある修学旅行を

編集委員 北條 直樹

市民の植えたケヤキで、百五十年後に錦帯橋の架け替えを行うという計画が岩国市で立てられ、来年三月から植樹が始められること。  
近畿では、伊勢・飛鳥・奈良・京都・大阪・神戸の街道三百キロを結び、古代から現代に至る千五百年の歴史を体験しようという歴史街道構想が進められている。西ドイツのロマンティック街道の日本版を目指すプロジェクトといわれる。  
いずれも夢のある計画である。もちろん錦帯橋の植樹にかかわる人々は、その架け替えまでは見届けたいとは思えない。歴史街道は、実現までには多くの困難もあろう。しかし、計画自体の時間的

な歴史の深さや空間的な広さが、人々の心を魅了する。夢とロマンに満ちたこれらの構想に拍手を送るとともに、実現に向かつてその成功を期待したいものである。  
さて、錦帯橋は近畿地区中学校の修学旅行コースにも含まれているし、歴史街道構想に含まれる飛鳥・奈良・京都は、道種を問わず、全国的に修学旅行のコースになっている。各学校が、修学旅行のプランを作成したり、また実際に事前指導を行う際に、こうした構想があることを生徒に知らせ、人と、自然や文化とのかわりかを考えさせることにしたらどうか。事前に構想を知って錦帯橋を見たい、また飛鳥の道歩き、生徒の心にはより深い感動がわくはずである。

次に、このような未来志向した発想を、やもすれば取り組みが停滞気味の修学旅行に生かすことはできないかと思う。今日、修学旅行のコースを設定するとき、中には業者が用意したプランをそのまま利用する学校もあり、全般的にマンネリ化しているという声も聞かれる。また一方では、大規模な遊園地をコースに取り入れたリ、スキー修学旅行と称して、体育的行事で修学旅行に代替している学校もあるなど、多様化する傾向がある。修学旅行としてのそれらの是非は、この際問わないが、生徒にとって、「生涯の思い出」として心に強く残り、将来に社会人として活躍するとき、その体験が生きてくるかどうか。かつて全修協が編集・発行した「心に残る修学旅行」には、小・中・高校とも自然のすばらしさ、優れた文化財に接した感動、寝食を共にした

### 青森県支部長に佐藤剛氏



協会の青森県支部長に、七月一日付で佐藤剛(つよし)氏が就任した。

佐藤氏は昭和三十年弘前大学文学部卒業、青森県内の中学校教諭を歴任し、現在財団法人青森県教育厚生会理事長、青森県学校生活協同組合理事長、青森県教育公務員弘済会理事長。

### 第2回生涯学習フェスティバル

今秋京都で開催  
文部省、京都府、京都市などによる「第二回生涯学習フェスティバル」は、十月三十一日から十一月五日まで京都において開催(財団法人全国修学旅行研究協会もこれに協力する)。

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国各地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いつつも、生徒ひとりひとりの心に輝く思い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

# ツーリストの修学旅行。

近畿日本ツーリスト 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2  
支店/国内250店(登録)/海外15店 運輸大臣登録一般旅行業第20号



